

ユーラシアの東と西、地理的に離れながらも、

二つの都市は一八世紀までに成熟し、

不思議なパラレルイズムがみられました。

一六八八年に元禄時代がはじまったころ、

イギリスでは名誉革命がありました。

文芸・出版のさかえた一八世紀は、

民衆文化の時代でもあります。

世紀末が、異国船の来航やフランス革命戦争といった

対外危機の時代だというのも奇妙な符合です。

人口は、一八世紀に江戸が約一〇〇万で安定し、

ロンドンには六〇万から一〇〇万へと増加中でした。

どちらも政治・経済・文化の中心として成熟し、

都市生活のインフラが模索され、維持された時代です。

このシンポジウムでは、スラック教授をむかえて

江戸とロンドンの一八世紀を中心に、

都市の社会、空間、表象、

そのパラレルイズムと相違点を討論します。

シンポジウム 江戸と倫敦

2006年3月16日(木) 14:00-18:00

東京大学工学部1号館15号教室 参加無料

主催：サントリー文化財団研究助成プロジェクト「18世紀のロンドンと江戸」（代表：近藤和彦）

共催：都市史研究会・イギリス史研究会

プログラム

問題提起 近藤和彦（東京大学）

報告 ポール・スラック（オクスフォード大学）| 'The rise of a metropolis and perceptions of London'

報告 伊藤 毅（東京大学）| 'Edo: the city and architecture'

報告 浅野秀剛（千葉市美術館）| 'The representation of Edo'

討論 司会=坂下 史（東京女子大学）

お問い合わせ先

〒113-8656 文京区本郷7-3-1

東京大学工学部1号館3階 伊藤毅研究室

電話 03-5841-7459 ファクシミリ 03-5841-8513

